令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号　田柄小学校

	課題分析	授業改善策
１年	・話すことに対する意欲はあるが、人の考えを聞いたり、自分の考えを相手に伝わるように話したりすることに課題がある。 ・字形が崩れる児童や助詞を正しく使えない児童がいる。 ・文章問題で問われていることを正しく捉えられない児童がいる。 ・タブレットPCは、使い始めたばかりのため、様々な機能の知識や経験を積んでいく必要がある。	・聞き方のきまりや話型を提示し、対話の流れを身に付けさせる。少人数での対話から練習を行う。毎日の音読練習や読書を通して語彙力や文章力を高めるとともに、自信をもって声を出せるようにする。 ・様々な運動や道具を使う経験を積ませ、体や指先を思い通りに使えるようにしていく。プリントに繰り返し取り組ませ習熟させる。絵日記や日常の書く活動の中で、助詞を正しく使って出来事や自分の気持ちを書けるように継続して指導する。 ・問題場面を理解できるように、キーワードに線をひかせたり具体物を用いたり図にかかせたりする。計算カードやタブレット PC を用いて繰り返し練習させる。 ・校内の ICT 活用計画を基に、写真撮影や手書き入力、学習アプリなどの機能を学習内で取り入れる。日常的にタブレット PC を使用して操作に慣れさせる。
２年	・伝えたい意欲はあるが、自分の考えを相手に伝わるように話したり、相手の発表を聞いて反応したりすることが難しい。 ・タブレット PC については、文字入力をするときにキーボード入力ができない児童が多い。そのため学習で活用できる場面が限られる。 ・漢字や計算などの基礎学力が身に付いていない、あるいは解決までにかなり時間を要する児童がいる。	・話型を提示したり、図や絵を使って示して話す方法を指導したりして、自分に合った伝え方を身に付けさせるようにする。また、全体、ペア、グループなど伝え合う場を多く設定し、自分の考えを伝え、相手の考えを聞く機会を多くする。 ・キーボード入力に頼らずできるオクリンクプラス、カメラ機能、その他の学習支援サイトなどを活用する。また、タイピングにも取り組み、名前の入力をはじめ簡単な文字入力の技能向上を目指す。 ・学習の最初に計算練習や漢字テストの時間を取る。また、それに向けて家庭学習に取り組めるように、具体的な学習方法を提示していく。
３年	・話し合い活動には、主体的に取り組める児童が多いが、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりするだけで終わりがちである。考えを交流することはできるが、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られる。 ・タブレット PC については、学習で使用することに意欲的である一方、ローマ字の学習やキーボード入力を始めたばかりであり、技能について個人差が大きい。 ・漢字や計算などの基礎的な学力が身に付いていない児童もおり、学力に個人差が大きい。個別に復習する時間をもつ必要がある。	・相手の話を聞く時に、共通点や相違点、注目すべき点などの視点を具体的に示す。ペアや少人数グループでの伝え合う活動を積極的に取り入れ、経験を重ねていけるようにする。 ・総合の時間や朝学習の時間、国語のローマ字の学習の時間を活用しながら、各アプリケーションの操作やタブレット入力の練習を行えるようにする。 ・算数においては学力向上支援講師と連携し、個別に指導をしたり、基礎的な課題を用意したりして基礎的な学力の定着を図る。タブレット PC のドリルパークや家庭学習ノートを活用し、個々の課題に合わせた学習を行う機会をもつ。

4年	・学習意欲は高い。話し合い活動では、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりするだけで終わりがちである。考えの交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られる。 ・漢字や計算など既習事項が身に付いていない児童もおり、学力に個人差が大きく、個別に復習する時間をもつ必要がある。また、語彙が少なく、文章を正確に理解したり、自分の考えをうまくまとめたりできない様子も見られる。	・考えの交流からさらに自分の考えを広げたり、よりよい考えを創り出したりすることができるように、相手の話を聞く際には、共通点や相違点等、注目すべき点を具体的に示し、経験を積み重ねていけるようにする。 ・算数においては学力向上支援講師と連携し、個別に指導したり、基礎的な課題を用意したりし、基礎的な学力の定着を図る。漢字は、毎週テストを行うなど習慣化することで学習のリズムをつかませ、自らすすんで学習に取り組むことができるようにする。また、児童自身が興味のある学習に取り組める家庭学習を進めていく中で基礎学力の向上も目指す。
5年	・タブレットを使った学習に対して意欲が高く、主体的に取り組んでいる児童が多い。プレゼンテーション力も全体的に高い。一方で自分の考えをもち、ノートなどにまとめることへの苦手意識が高く、文章表現に乏しい。 ・答えを求めることや、見通しがもてるものに対して意欲的に取り組むことができるが、思考の過程を説明することや、よりよいものを見い出したり自己を高めたりすることには消極的な面がある。 ・漢字や計算など既習事項が身に付いていない児童もおり、学力に個人差が大きい。 ・文章問題で問われていることを正しく読み取ることや、数量関係を捉えて数直線に表したり立式したりすることに難しさを感じている児童が多い。 ・読書を好んでする児童が多いが、実用書や図鑑、短編が多く、物語や長編に関わる機会がない児童がいる。	・朝や帰りの会に、全体の前で簡単なスピーチをしたり、ペアやグループでの話し合いや伝え合い活動を取り入れたりして、自分の考えを伝える機会を多くもつ。また、国語モジュールの時間を活用し、10分程度で書くような短作文の活動に取り組む。 ・自分の考えを伝えたり書いたりするときに、考えのよさや伝え方のよさを共有していく。また、対話的な活動を通して、新たな考えに気付くよさや、自分の考えを伝える楽しさを体感できる活動を意図的に設定する。 ・漢字は、読みの定着を図りながら、個の実態に応じて段階的に習得できるよう指導する。算数では学力向上支援講師と連携し、毎時復習の時間を設けるなど、未定着な児童には個別の支援を行う。 ・分かっていることや問われていることを整理して、数直線がかけるように繰り返し指導する。文章から読み取ったことを図や半具体物で示し、視覚的に理解できるようにする。 ・朝読書や図書の時間を通して本の紹介やブックトークを行っていく。
6年	・令和８年度全国学力調査では、国語、算数において東京都、全国の平均正答率ともに上回る結果となった。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項（69.5%）」の数値は、国語の他の領域に比べると正答率が低く、課題となっている。また、児童アンケートでは「読書が好き」と答えた割合が平均を下回る傾向にあった。 ・答えを求めることや、見通しがもてるものに対して意欲的に取り組むことができるが、思考の過程を説明することや、よりよいものを見い出したり自己を高めたりすることには消極的な面がある。 ・漢字や計算など既習事項が身に付いていない児童もおり、学力に個人差が大きい。	・言葉の特徴やきまりを正しく理解し、学年別漢字配当表にある漢字を文章の中で適切に使いこなせるよう、日々の授業や小テスト等を通じて指導を徹底する。図書室と連携した選書や朝の読書時間の充実を図り、読書を通じて豊かな語彙を育み、本の魅力や必要感を児童の中に根付かせる機会を増やす。 ・自分の考えを伝えたり書いたりするときに、考えのよさや伝え方のよさを共有していく。また、対話的な活動を通して、新たな考えに気付くよさや、自分の考えを伝える楽しさを体感できる活動を意図的に設定する。 ・図形や数直線、変化の割合など、児童がつまずきやすい抽象的な概念については、PC・タブレットのシミュレーション機能や具体的な教具を効果的に取り入れ、視覚的に「量感」や「きまり」を捉えられるようにする。朝学習や算数のミニテスト等を活用し習熟を図る。

専科	・新しい題材や教材には興味があり、取り組もうとする意欲があるが、学習内容を既習内容と結び付けて捉えることが難しい傾向がある。 ・全体の発表に苦手意識をもったり、受け身になってただ聞くだけになったりする児童がいるため、対話の指導に工夫が必要である。 ・興味をもって取り組んでいるが、自分の思いや考えに自信をもてない児童が多い。自ら考え、進んで取り組めるような指導の工夫が必要である。 ・自らの表現を工夫することはできるが、友達の工夫を受けて、取り入れて工夫することは苦手である。	・既習の知識同士を結び付けて考えることを習慣化させるため、言葉掛けを続けたり、既習事項を示したりする。 ・ペアやグループでの話し合いや伝え合いの機会を取り入れる（ICT 機器活用）。何について話し合うのか、視点をもって深められるようにする。 ・学習に合わせて、ICT 機器を中心に活用して自分の考えを表現させ、理解を深めていくようにする。 ・ICT を活用し、自分の思いを伝え、友達の思いに気付けるようにしていく。